

# 「こおりやまの米」通信

平成27年7月1日

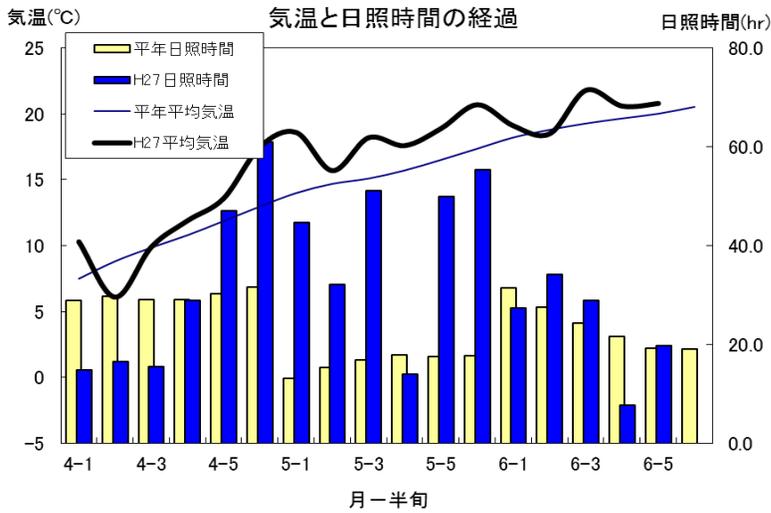


郡山市  
イメージキャラクター  
「かくとくん」

編集：郡山市  
JA 郡山市 (TEL. 921-0724)  
NOSAI 郡山田村 (TEL. 933-3307)  
県中農林事務所農業振興普及部 (TEL. 935-1310)  
発行：郡山市農作物生産対策協議会 (郡山市園芸畜産振興課 TEL924-3761)

Vol.6 次号は7月中旬(穂肥等)

\*最新号はJA各支店窓口にならえつけてあります



7月1日 生育調査結果

品種 (調査地点)	年次	草丈 (cm)	茎数(本)	
			株あたり	m <sup>2</sup> あたり
コシヒカリ (三穂田)	本年	54.8	30.1	566
	平年比(%)・差	101	102	111
コシヒカリ (田村)	本年	59.6	33.5	613
	平年比(%)・差	92	120	109
ひとめぼれ (安積)	本年	47.7	30.6	542
	平年比(%)・差	99	107	123
天のつぶ (喜久田)	本年	53.8	27.2	675
	前年比(%)・差	101	103	131
あきたこまち (湖南)	本年	41.3	29.6	580
	平年比(%)・差	101	145	148

## 1 生育概況

7月1日の生育調査の結果は平年に比べ、コシヒカリ、ひとめぼれ、天のつぶは草丈が平年並み、茎数は平年並みからやや多い状況です。湖南のあきたこまちについては草丈は平年並み、茎数はやや多くなっています。

## 2 天気予報

### <東北地方 1か月予報> (6月25日 仙台管区气象台発表)

平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。週別の気温は、1週目は、平年並みまたは高い確率ともに40%です。2週目は、平年並みの確率50%です。

### <東北地方 3か月予報> (6月24日 仙台管区气象台発表)

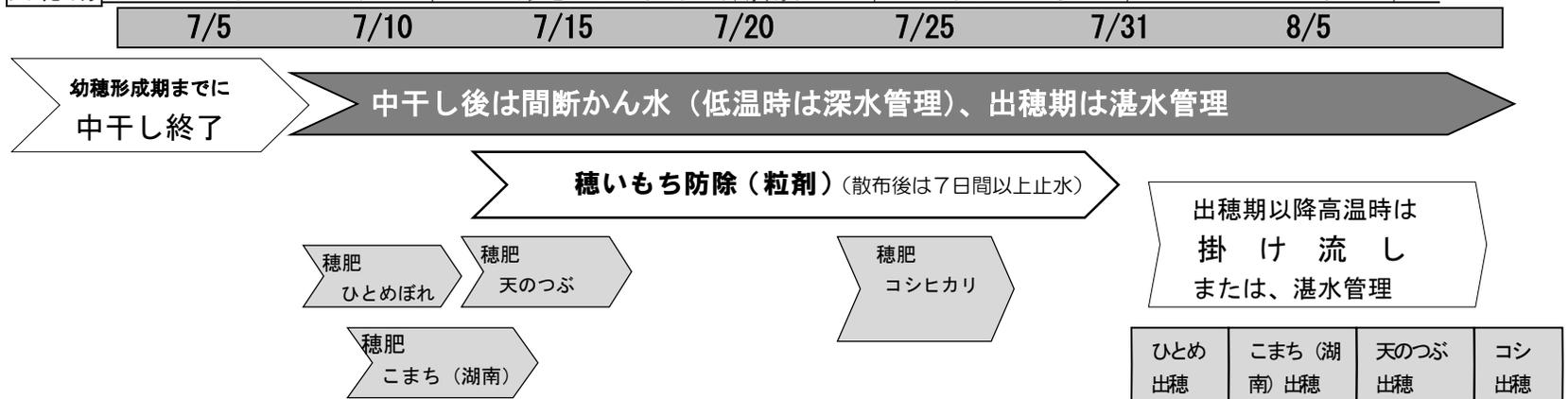
8月 東北太平洋側では、天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。降水量は、平年並みまたは多い確率ともに40%です。

9月 東北太平洋側では、天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ曇りや雨の日が少ない見込みです。降水量は、平年並みまたは少ない確率ともに40%です。

## 3 作業の目安 (管内主要品種の予想値です。ほ場ごとに生育を確認し作業日程を決めて下さい。)

幼穂形成始期 ひとめぼれ：7/11 あきたこまち(湖南)：7/12 天のつぶ：7/14 コシヒカリ7/17

出穂期 ひとめぼれ：8/5 あきたこまち(湖南)：8/6 天のつぶ：8/8 コシヒカリ：8/11



## 4 水管理

- (1) 中干し後は、間断かん水により根を健全に保ちましょう。低温の恐れがある場合は深水にしましょう。
- (2) 出穂期以降に高温が続く場合はできるだけ掛け流しとし、水田の水温・地温を下げ根の活力を維持しましょう。

！！平成27年度福島県農薬危害防止運動展開中！！(6/10~9/10)！！

農薬(特に粉剤・液剤)を使用する際は、近隣作物に飛散しないように注意して下さい。

## 5 カメムシ類対策

**！カメムシ注意報が発令されました！乳熟期の防除を実施しましょう！**

- (1) 畦畔雑草の管理：2～3回の草刈りで幼虫・成虫ともに大幅に密度が低下します。  
ただし、出穂期前後はカメムシを水田内に追い込む場合があるので、草刈りは出穂10日前までとします。
- (2) 1回目の防除：粉剤、液剤等による防除は、乳熟期（出穂期〔ほ場の約半分が出穂した時期〕の7～10日後）を基本とします。粒剤を使用する場合は、穂揃期～乳熟期に湛水状態で散布します。
- (3) 追加防除：その後も発生が見られる場合は7日おきに追加防除を行いましょう。  
割れ糞はカメムシによる吸汁を助長します。割れ糞の発生しやすい品種（あきたこまち、天のつぶ）では、出穂20日後頃の追加散布が重要ですので、乳熟期と出穂20日後の2回散布を基本にしましょう。

薬剤名	使用量	使用回数	使用時期
MR. ジョーカー粉剤 DL*	3～4kg/10a	2回以内	収穫7日前まで
スタークル液剤 10*	1000倍、60～150L/10a	合わせて3回以内	
スタークル粒剤	3kg/10a		合わせて2回以内
キラップフロアブル	1000～2000倍、60～200L/10a		
キラップ粒剤	3kg/10a		

\* 蚕に対する毒性の強い農薬であり、使用規制地域を確認のうえ使用しましょう。

※使用回数については、無人ヘリ防除等による使用農薬もカウントされますので、使用回数を超えないようご注意ください。  
※カメムシに効果のある薬剤はミツバチなどの有用昆虫に対し長期間影響のある薬剤があるため、養蜂業者（巣箱の所有者不明の場合は県中農林事務所農業振興普及部 TEL935-1310）との連絡を密にし、事故のないようにしましょう。

## 6 穂肥（出穂25日前の生育状況で判断します。）

穂肥のチッソ成分2kgの目安（10aあたり）

- (1) ひとめぼれ、あきたこまち、天のつぶは、出穂25日前にチッソ成分2kg/10aを基本とします。  
コシヒカリは、倒伏しやすいので出穂15日前にチッソ成分2kg/10aを基本とします。  
有機質肥料の場合は、ゆっくり効くので、5日程度早く施用しましょう。

肥料銘柄	N-P-K	効き方	施用量
NKC6号	17-0-17	早い	12kg
IB4号	15-4-15	ややゆっくり	13kg
こおりやま2号 (有機入り)	10-2-10	ゆっくり (5日早く施用)	20kg

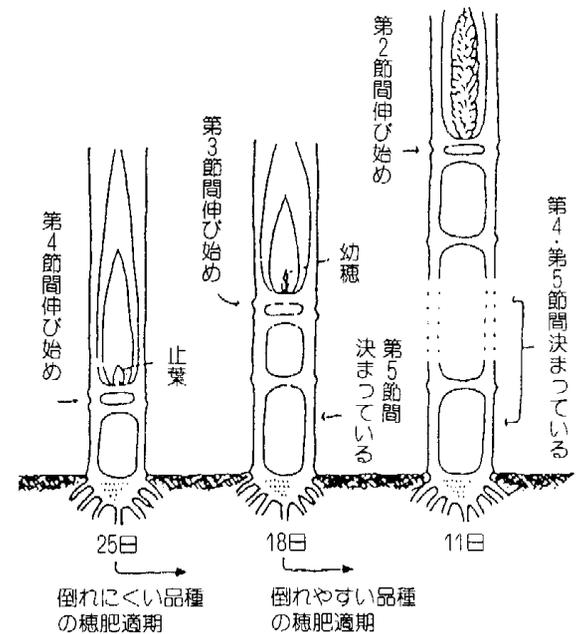
- (2) 幼穂長による出穂前日数の判定（出穂期は天候により変化しますので幼穂長を確認しましょう）

幼穂長	出穂前日数	備考
1mm	25日	幼穂形成始期
2mm	20日	
8-15mm	18日	
40-60mm	14日	
80mm	12日	減数分裂期

- (3) 出穂25日前に生育を確認し、草丈が長く葉色の濃いほ場は、穂肥の量を減らすか時期を少し遅らせましょう。  
また、出穂5日前以降の実肥は、玄米タンパク質が高まり食味が低下するので行わないようにしましょう。

（出穂25日前の生育の目安）

品種	草丈	葉色
ひとめぼれ	60～65cm	3.5～4.0
コシヒカリ	65～70cm	3.0～3.5
あきたこまち	55～60cm	3.5～4.0



- (4) 基肥一発肥料の場合は、原則として穂肥は行いません。  
適正な穂肥を実施し、倒伏による放射性物質汚染を防ぎましょう。

## 7 いもち病対策

いもち病に感染しやすい気象条件となっています。感染の危険が高まっていますので注意してください。

- (1) 早期発見・早期防除につとめ、葉いもちの病斑を発見したらすぐに液剤や粉剤等で防除しましょう。
- (2) 粒剤で穂いもち予防する場合は、下記薬剤等を散布しましょう。（湛水状態で散布し7日間以上止水）

薬品名	使用量	使用時期
コラトップ粒剤 5	3～4kg/10a	出穂30～5日前
フジワン粒剤	3～5kg/10a	出穂30～10日前

※有効成分ごとの使用回数制限を確認のうえ使用して下さい。

この資料は、平成27年7月1日現在の農薬登録情報に基づいて作成しています。

**飼料用米等の新規需要米の取組計画書の提出期限が延びました！**

**提出期限は「7月末日」までです！**

飼料用米等の取組計画等に関する問い合わせ先 TEL. 024-922-1614  
東北農政局 福島地域センター郡山庁舎 〒963-8013 郡山市神明町4-22